

平成21年度 政策評価書（事後の事業評価）

担当部局：経理装備局システム装備課
実施時期：平成22年1月～3月

事業名： 99式空対空誘導弾（改）

政策体系： 4-1 研究・開発

事業内容： 現有の99式空対空誘導弾（中距離空対空誘導弾）の機能・性能を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発する。

経費総額： 約62億円

○評価の内容

1 事業の目的

諸外国の中距離空対空誘導弾は段階的な能力向上を推進しており、航空自衛隊で装備している99式空対空誘導弾（中距離空対空誘導弾）は、攻撃範囲、母機残存性、耐妨害性等の機能・性能が今後相対的に低下することが予想される。したがって現有の99式空対空誘導弾の機能・性能を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発し、航空優勢の獲得に寄与することを目的とする。

2 達成状況

(1) 達成効果

下記の能力向上等を行うことで、攻撃範囲や発射母機の残存性、耐妨害性等を向上させた99式空対空誘導弾（改）を開発することができた。

ア 横行目標対処能力の向上

99式空対空誘導弾では対処できなかった横行する航空機目標に対処することができ、対航空機に対する攻撃範囲が拡大したことを発射試験等により確認した。

イ 巡航ミサイル対処能力の向上

99式空対空誘導弾に比べ、より探知しにくい巡航ミサイルに対処することができ、巡航ミサイル対処能力が向上したことを発射試験等により確認した。

ウ スタンドオフレンジ（注1）の延伸

99式空対空誘導弾に比べ、スタンドオフレンジを延伸させることで、発射母機の残存性が向上したことを発射試験等により確認した。

（注1）スタンドオフレンジ：発射母機が目標機に対して発射したミサイルが自立誘導に入った時点における発射母機と目標機の距離のこと。

エ E C C M（注2）能力の向上

ミサイル誘導に対する各種妨害に対処することができ、耐妨害性が向上したことを各種試験により確認した。

（注2）E C C M：対電子戦（Electronic Counter Counter Measure）

オ 量産単価の低コスト化

ライフサイクルコスト抑制のため、民生技術の使用、部品点数の削減等を実施することにより、開発着手時の見積量産単価に比べ、数百万の価格低減を図ることができ、安価な見積量産単価を達成した。

(2) 達成時期

平成14年度から18年度にかけて試作、平成16年度から20年度にかけて試験を実施し、所要の機能・性能を有することなどを確認した。なお、試験で使用する航空機及び計測器材等に不具合が発生したことから、事前評価時に比べ、試験が1年遅延した。

(3) 教訓等事項

本事業を通じて、中距離空対空誘導弾の能力向上に関する技術を獲得し、試験においてこれらの有効性を確認した。

○今後の対応

今後、航空自衛隊の戦闘機部隊への整備を行う。

○その他の参考情報

運用構想図・・・・・・別紙